

令和7年度 学校経営計画

四條畷市立四條畷小学校

校長 香村 紀子

Ⅰ 学校経営方針

学校教育目標 『一人ひとりが 輝き合う 畷小』

人口減少や少子高齢化、グローバル化の進展、つながりの希薄化など社会がより複雑に変化し続け、一層不安定な時代を迎えている。その中で、子どもたちがよりよい社会を形成し、しあわせに生きていくために、学校はどのような役割を果たすべきであろうか。

四條畷市教育振興計画に掲げられた基本理念「みんなの学びが叶うまち～生涯 学び 夢 挑戦～」は、これまでの学校教育がめざしてきたものと一致する。変化の激しいこの時代だからこそ、この基本理念には重みが感じられる。決して経験や知識だけではなく、新たな発想や視点をもって学びを積み重ね、生きていく力をつけていくことが求められる。

子どもたちが自分たちの願いを実現するために考えたり、行動したりしていくことが、よりよい社会づくりにつながる。学校という限定された場で、その取組みにチャレンジし、自分たちで社会づくりが行うことができる実感をもつような学びを実現させていきたい。

その実現をめざしたとき、一人ひとりの違いからうまれる多様性や豊かさに気づき、尊重し合い、その上で成し遂げられる経験をする学びが必要となる。そして、この学びの中で、一人ひとりの力が発揮され、一人では経験できない何かを得ていくことができる、そんな学びの実現が、一人ひとりが輝きあい、様々なことに挑戦していきながら互いを認め合う子どもたちの育成につながると考える。

同時に、子どもたちがさまざまな背景の中で困り感を感じている状況は変わらずある。不登校などの生徒指導上の課題やスマホやネットゲームの活用にみられる諸課題など、現状を踏まえつつ子どもたちに寄り添いながら、ていねいに取り組んでいくことで、学ぶ楽しさや仲間とともにあることの楽しさが感じられる魅力ある楽しい学校にしていきたいと考える。

本校では、これらのことを「非認知能力の向上」というテーマを掲げ、昨年度に続き学校教育活動全体で取り組んでいく。「学習指導」「生徒指導」などという指導の視点を総合的に組み合わせ、子どもの育ちを全体像としてとらえ、こどもたちにアプローチする取組みを、推進していきたい。

2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

★めざす学校像	○一人ひとりを 大切にする学校 ○子どもどうしが つながりを実感できる学校 ○「楽しい」がまった学校
★めざす子ども像	○自分の心と体を大切にする子ども ○意欲的にあきらめずに挑戦する子ども ○周りの人とともに取り組む子ども
★めざす教師像	○子ども理解を深め、育ちを支える教職員 ○学ぶ意欲を引き出す教職員 ○ともに学び続け、互いに支え合う教職員 ○楽しく学校づくりをすすめる教職員集団

3 学校の現状（よさと課題）

（1）子どもたちの実態

本校は市内で最多数の児童が在籍し、南は四條畷神社、北は國中神社、東は清滝峠、そして西は畷生会病院ととても広い校区を有する。子どもたちは、明るく元気でとても人懐っこく、子どもらしさを感じられる子たちが多い。授業場面では、一生懸命真面目に取り組む様子が見られるが、その成果を十分に感じられるには至らない現状がある。また、不登校傾向がみられる子どもも少なくなく、一人ひとりが様々な課題と向き合いながら、学校生活を送っている。

これまで、自分や友だちのよさを互いに伝え合う取組みを継続する中で、少しずつ自信をつけ友だちとつながろうとしている姿が多くみられてきている。高学年では、児童会活動や委員会活動などで子どもの主体的な働きかけがみられはじめ、今後一層取組みをすすめていきたい。

（2）子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

歴史ある地域にあって、新たに宅地開発がなされているところがある。飯盛山に連なる山々や、昔水車を動力に工場を動かした川があるなど、四條畷郷土史カルタに出てくる場面の多くは、本校の校区内にあるというほど、歴史と自然豊かな環境にある。

本校を卒業するほとんどの児童が四條畷中学校へ進学する。四條畷中学校を中心に、本校及び忍ヶ丘小学校での小中連携を充実させる取組みがすすみ、子どもたちを中学校区で育てようという方向性を共有している。合言葉は「るるる」。「やってみーる・ねばーる・つながーる」子どもたちの姿をめざしながら、それぞれに取組みをすすめていくことで、中学校に進学したときに段差なく円滑な中学校生活を始めることを期待し、また9年間で子どもたちを育てていく意識を教職員も持つことができている。

②地域

創立130年を越える古い歴史ある小学校である。そのため、地域の方々には、四條畷小学校に対して愛着をもってくださっている方が多くいらっしゃる。

夏には自治会の夏祭り、秋にはだんじりの登場する秋祭りなど、まだまだ地域の行事が継承されている。地域でも子どもたちの育ちを見守っていこうという思いがあり、学校の教育活動についても大変協力的に理解してくださっている。

学校運営協議会は各校や地域に関わる委員構成で運営されている。現段階では中学校での見守り活動・授業支援、3校での大掃除支援の活動を行い、地域で学校を支えることを実現しようとしている。

③組織（教職員、PTA、保護者）

今年度新たに若い教員を複数人迎え、全員新たな気持ちでスタートさせた。授業研究には熱心で、子どもたちのわかる授業のための工夫を惜しまない。同時にていねいに子ども理解を深め、一人ひとりに合った対応を組織として行っている。様々な対応体制は根付いてきており、その上でそれぞれの学級運営や授業実践をより効果的で子どもたちの意欲を高めるものにするための学びを、多重的にすすめるための学校体制づくりを行った。この体制を子どもたちによりよい学びを実現させられるよう機能させていくことを、個々の指導力向上とともに期待する。

PTAは任意加入を市内でもいち早く導入し、できる人ができる範囲で子どもたちのために何かをしたい、と積極的に活動している。PTA主催の「なわパー」という催しは子どもたちの楽しみな行事として位置づいている。また、歴代のPTAの方々が、後援会を組織し、長く学校を応援してくださっている。

保護者は、学校の教育活動に協力的である。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分1『学校経営』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）
楽しい学校づくりを推進する		授業改善に関するアンケート 学校教育自己診断アンケート
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
学校に行くのが楽しい (児)(保)	(児) 80% *R6 70% (保) 90% *R5 88%	・子どもたちにとって安心な場所としての学校づくりを進める（ほっとルームの活用） ・児童生徒支援コーディネーターの活動充実による児童主体の活動推進 ・子どもたちの「やってみる」を引き出し、実現する場の設定と指導の工夫
児童会活動や委員会活動では、自分の役割や活動の目標を決めて楽しく活動できた。(児)	(児) 85% *R6 79%	
授業はわかりやすく楽しい(児)	(児) 80% *R5 69%	・視覚支援をはじめとする工夫によるわかりやすい授業実践 ・授業改善加配とともにだれもがわかりやすく、参加したくなる授業の展開について研究 →意欲的に取り組むことのできる課題設定の工夫 →「やってみる」を意識した授業展開
学習などで課題を解決しようと、自分で考え、自分から取り組むようにした。(児)	(児) 73% *R6 68%	
学校では、一人ひとりが大切にされていると感じていますか。(児)(保)	(児) 83% *R6 79% (保) 90% *R6 87%	・いじめアンケートの実施（年3回）及び日常の観察による子ども一人ひとりの気づき（生徒指導交流の活性化） ・一人ひとりの困り感に対する適切な対応 ・「つながる」を意識した集団づくり

目標設定区分2『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）
学校組織力の充実		学校教育自己診断アンケート 授業改善に関するアンケート
B 目標実現に向けた取組み		

項目	達成基準	具体的な方策
学校運営の状況や課題を全教職員で共有し、学校として組織的に取組んでいる(教)	(教) 100% *R6 100%	・管理職と職員会議の間に「部長会」を置き、管理職からの情報提供及び教職員からの考え等の情報共有ができるようにする。 ・児童生徒支援COと授業改善加配を学校運営に効果的に活用し、「るるる」の取組みを組織として進める。
校内研修で取組むことで、「非認知能力」についての学びが進んだ(教)	(教) 90% *R6 90%	・学習指導部を中心に、「非認知能力」についての学びを授業実践に結び付け、一層理解を深め実践力を向上させる。
「非認知能力」の育成をめざし、授業づくりに学びをいかすことができた(教)	(教) 88% *R6 83%	□年 4 回の研究授業公開 □講師を招いての研修開催 ・学校生活の様々な場面で「るるる」を実現していく
教職員間で、授業の進め方について検討する機会があり、授業力が向上したと感じる(教)	(教) 80% *新規項目	・研究授業の検討を通じて、学年や学年部、学習指導部などさまざまな教員がともに授業づくりに関わる。 ・授業改善加配教員により、算数の授業に焦点をあて授業改善を求めることを通して、授業についての学び合いをすすめる。
教職員間で、子どものことや授業など業務についての話がしやすい。	(教) 85% *R6 78%	・次年度に向けた学校のありかたを教職員みんなで考えていく場を設定し、いろんな角度から意見交換する場をつくる。

目標設定区分3 『人の管理・育成』		
A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
教職員の資質向上と学校運営への参画意識の育成		学校教育自己診断アンケート
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
学校運営の状況や課題を全教職員で共有し、学校として組織的に取組んでいる(教)	(教) 100% *R6 100%	・管理職と職員会議の間に「部長会」を置き、管理職からの情報提供及び教職員からの考え等の情報共有ができるようにする。 ・児童生徒支援COと授業改善加配を学校運営に効果的に活用し、「るるる」の取組みを組織として進める。
初任者など経験の浅い教職員を学校全体で育成している(教)	(教) 75% *R6 62%	・初任者加配や学習指導部を中心に経験の浅い教職員を支え、研修のフォロー体制を整え育成していく。 ・各学年、各指導部での役割を、一人で果たせるために引継ぎや相談が細かにできる関係性を育む。
サービスや不祥事防止についての学びがすすんだ	(教) 100% *新規項目	・月 1 回の職員会議において、校長から研修を行う。

(教)		
-----	--	--

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
学校の取組みの積極的発信 学校運営協議会の活動周知を広める		学校教育自己診断アンケートなど
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
学校だよりの発行	月1回以上 データ配布へ移行	・月1回以上学校だよりを発行し、学校の様子や学校全体の方向性を保護者地域に知らせるようにする。 (配布先:保護者, 民生委員など) ・学校だよりや学年だよりなど必要な情報にいつでもアクセスできるよう、データ送付に移行していく。 ・各指導部の取組みについても、保護者周知を図る手立てを工夫する。
学校だより・学年だより・ 学級だよりなどにより、学 校の教育活動や子どもた ちのようすがよくわかる (保)	(保) 88% *R6 84%	
学校運営協議会の活動 を知っていますか(保) (教)	(保) 50% *R6 31% (教) 80% *R6 69%	・活動のようすを周知する。(学校だより, 学校HPなど) ・広報の仕方について、検討し実施する。